

組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名：歯学部

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	
<p>1) 診療参加型臨床教育の充実 (背景:全国的に展開される「歯学教育の改善・充実」に対応するため) 達成目標と実習項目を明確化する。臨床教授制度を利用し、学外医療機関の臨床教育への参画を推進する。</p> <p>2) 学士力保証と教育の効率化の検証 (背景:大学の組織目標を先行学部として実施するため) アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・マップの循環的な相互検証を目指す。新しい教育ニーズをカリキュラムに組み込む検討を進める。</p> <p>3) シミュレーションシステムやIT活用による効率的な教学システムを構築 (背景:教育に費やせる人的資源の減少に対応するため) シミュレーションシステムの老朽化に対応して改修を行い、新たに学生証を用いた電子的出席管理システムなどを試行する。</p>	<p>1) 診療参加型臨床実習の充実 ●診療参加型臨床実習の改善・充実に向け、H24年度大学機能強化戦略経費の採択を得て、全国に先駆けて電子ログブックの開発を開始した。 ●診療参加型臨床実習に併せて必須化している学外インターンシップ実習の受け入れ機関を増やすため、学外で臨床教授、臨床准教授、臨床講師となっていた学外教員に学生の受け入れを依頼した。 ●このような、周術期管理歯科や在宅介護歯科の臨床教育に参画頂ける施設の連絡網を確立する目的で、歯学教育関連病院会議(仮名称)を準備中である。</p> <p>2) 学士力保証と教育の効率化の検証 ●歯学部のアドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・マップを作成した。また、これに関連して、現3年次編入学制度についてのアンケート調査を編入学生ならびに編入学卒業生に対して行い、教務・入試委員会合同委員会で議論した。その結果、カリキュラムの緊密な詰め込み、より効率的で先進的なカリキュラムに向けての見直しの弊害となっている点などが問題点として挙げられ、見直しの方向で議論を進めることとなった。 ●医療現場での多職種連携を推進する周術期管理歯科や在宅介護歯科、災害歯科、歯科法医学などの教育を新たに追加するために、総合講義の演者を刷新した。</p> <p>3) シミュレーションシステムやIT活用による効率的な教学システムを構築 ●継続して臨床基礎実習で使用するシミュレーションシステムの改修(6台)を進めるとともに、マスカットキューブに歯科用のチェア(2台)やシミュレーションシステムを設置し、診療参加型臨床実習や研修医教育の充実を行った。 ●歯学部棟の4階と5階の全教室に、ICカード化された学生証を用いた電子出席管理システムを導入するとともに、学生ロビーに電光掲示板を設置するなどにより、効率的な教学システムに向けた改善を行った。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標	
<p>1) 歯学教育に関する調査・研究の推進 (背景:教育の効率化と平成24年度歯科医学教育学会を開催するため) 日本歯科医学教育学会を7月に岡山で主管する。</p> <p>2) その他の研究活動は、研究科(歯学系)に準ずる。</p>	<p>1) 歯学教育に関する調査・研究の推進 ●日本歯科医学教育学会を、7月19日～21日に開催し、文部科学省から特別講演を頂いた。コアカリキュラム、多職種連携、チームベース教育などのシンポジウムを開催し、盛会裡に終了した。 ●「歯学教育認証制度などの実施に関する調査研究事業」(文部科学省の大学改革推進等補助金)が東京医科歯科大学を中心に採択され、岡山大学歯学部長が歯学教育認証評価検討WG委員に選ばれ、特に臨床実習の実質化に関して貢献した。 ●国立大学歯学部附属病院将来構想実現化WG委員に、岡山大学病院歯科系代表副院長が選ばれ、超高齢社会における教育と診療改革について貢献した。</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	<p>2) その他の研究活動については、研究科(歯学系)を参照のこと。</p>
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標	
<p>1) 社会貢献の体制を確立する (背景:生涯教育と情報発信の基地としての役割を強化する) 病院や研究科との連携を強化し社会貢献を効率良く実施するため、社会貢献のWGを設立し、岡山歯学会、同窓会、社会(医療関係者等)と広く意見交換を行ない情報発信ができる体制を確立する。</p> <p>2) 地域保健活動の推進 (背景:予防医学の立場から地域保健活動が求められているため) 保健所等の地域行政機関と協力して、情報収集、情報提供を通して地域住民に貢献する。</p> <p>3) 地域医療については、大学病院に準ずる。</p>	<p>1) 社会貢献の体制を確立する ●岡山歯学会や同窓会、歯科医師会との連携を強化し、ホームカミングデイや同窓会セミナー「安全、安心な口腔インプラント義歯治療」を開催した。 ●摂食・嚥下リハビリテーションセミナー(初級者コース、上級者コース)を歯科医師会と共同で行った。 ●周術期管理歯科や在宅介護歯科の臨床教育に参画頂ける施設の連絡網を確立する目的で、歯学教育関連病院会議(仮名称)を準備中である。 ●岡山大学病院、岡山大学歯学部の共催で、「周術期における口腔機能管理を具体的に考えるシンポジウム」を、7月22日に開催し、全国の自治体、医師会、歯科医師会、大学病院等から300名超の参加者を得て、盛会裡に終了した。</p> <p>2) 地域保健活動の推進 ●岡山県と協力して平成23年度に策定した「岡山県歯科保健推進計画」について、さらに踏み込んだ具体的な施策について検討した。 ●乳幼児健診、学校歯科健診、地域住民歯科健診および産業現場での保健活動による情報提供と歯科保健指導を行った。 ●地域の保健担当者からの専門的事項に対する質問に随時対応した。</p>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	<p>3) 地域医療については、大学病院を参照のこと。</p>
【総括記述欄】	
<p>全国の歯学部の中でも懸案となっている診療参加型臨床実習の充実が、H24年度大学機能強化戦略経費の採択などによりうまくいった。来年はさらに、周術期管理歯科、在宅介護歯科の充実に関心を注ぎたい。現行の編入学制度のために、カリキュラムの改革が難しくなっており、学部内で議論を尽くして編入学制度改革に着手したい。</p>	